

第 3 回 瑞浪市市民まちづくり会議 グループワークまとめ ②

と き：令和 6 年 7 月 26 日(金) 19 時 00 分～

ところ：瑞浪市役所西分庁舎 1 階会議室

1 グループ 出た意見を種類別に大きくグループ分けしました。話し合いの機会、内容、方向性等について

- ・ 思いを持った人が手を挙げる機会になったことが良かった
- ・ とても良かった。住民が地域のことを自分ごととして話せたこと
- ・ 新たな人材が発掘出来た
- ・ まちづくりの新しい担い手が出てきたことが良かった
- ・ 地域の課題 陶が共通理解が出来た
- ・ 問題意識から共通認識になったワークショップ
- ・ まちづくり活動の指標が出来た
- ・ まちづくりの方向性がなんとなく住民の中で合意出来たことが良かった
- ・ 若い人の新しいアイデア、提案 例-花
- ・ 様々なアイデアが聞けて良かった
- ・ より具体的な計画と実施体制
- ・ 総合計画と地域計画との整合性は

地域活動の在り方について

- ・ まちづくり組織の改革 やらされ感のあるものは思い切ってやめる
- ・ まちづくり組織の改革 団塊世代が担ってきたことすべては、もう出来ないなのでスリム化する
- ・ まちづくり組織の改革 やりたい人が集まってグループをつくり、そこに予算をつける
- ・ 参加者の固定化 もっと多くの人が
- ・ 参加者の顔ぶれがいつも一緒
- ・ 若い人の参加が少ない
- ・ メンバーの広がり

地域計画策定の過程における改善点について

- ・ 実施するにあたり予算助成が必要である
- ・ 3 回では少なすぎた
- ・ 3 回では少ない？
- ・ ワークショップの時がもっと欲しかった
- ・ 職場に入りこんで伴走出来る体制、スキル
- ・ 職員がファシリを出来るようにトレーニング
- ・ 町民全体での盛り上がりがなかった。PR 不足では？

2 グループ 出た意見を種類別に大きくグループ分けしました。

話し合いの機会、内容、方向性等について

- 町内の課題が明確になり共通理解が出来た
- 市内の全ての町協が作成出来て良かった
- 共通価値、理念、将来像を決める場をつくれた
- まちづくりを可視化出来た⇒文字
⇒実践
- 参加者が増える
- 高校生から80代まで奥の参加者の思いが聞けた
- 学校や団体等、巻き込んで動くことがよい
- 地元を良くしようと考えている市民が多くいる 良い
- 子どものためにと思いをもつ人がいる

地域活動の在り方について

- 誰かがやってくれるという他人まかせが多い
- いつも同じ人が役をもっている 個々が協力する
- やりたいことベースで見直してもよいのでは？⇒前例
- 子ども、若者の意見も！（行政も）
- 後継者育成
- 伴走者育成

地域計画策定の過程における改善点について

- 町の課題をある程度焦点化してファシリテーター（進行役）が進めて打ち合わせを
- 事前の町協の執行部との打ち合わせが不十分であった
- 地域と行政の「間」の作り方の工夫がいる
- 職員の配置について地域の意見を聞く会
- CS との連携（学校と地域の連携）
- 時間配分がうまくいかなくて終わってしまったことが残念
- 参加者のフィードバックがやや不足していたと思う
- 事前のグループ分けで話し合いのリーダー的な人がグループにいることが大切
- 第1回からの焦点化がやや甘いと思った
- 人数のバランス（課題別）が悪かったと思う
- ワークショップ開催の情報提供不足 知らない人が多い（瑞浪地区）
- 町内に広がる方法を事前に伝えておくと良い

グループ分けの結果の意見まとめ

→多世代からの意見をもとにした、新たなアイデアの創出をはじめ、真摯に地域での話し合いをする機会となったことは良かった。話し合いを進める中での共通理解、地区で今後取り組む活動についての方向性について、地域としての大枠の合意形成に繋がるものになったと評価できる。

しかし、ワークショップの回数が僅か3回と少なく、十分な話し合いをすることができたとは言えない。回数は少ない分、事前に策定の中心となるまちづくり推進協議会との事前・事後の打ち合わせをもっと充実するべきであった。今回の事業について、内容が大変重要であるにもかかわらず地域での盛り上がりが見えなかったと評価される点については、地域での情報提供・共有がうまくいっていなかったものと考えられる。地域と関わる市の職員が地域とうまく調整を行えるためにも、会議内外でのファシリテーターとしての能力を磨いていくべきである。

また、地域活動自体について、参加者が固定化され、子ども・若者などの新たな関係者のへの広がりが少ない。現状の担い手でできないもの、やらされ感のあるものは思い切ってスリム化を検討すべきである。やりたい人がやりたいことを地域のためになる活動としてできるように見直す時期にきている。そうすれば、他人任せでなく、自主的に楽しく、自然発生的にヒトが集まり、活動できるようになるのではないかと。活動を見直す中で、子ども・若者にも参画してもらえよう、地域全体でPR・調整をすることで、新たな担い手が見いだされ、後継者・伴走者の育成へと繋げ、持続可能なまちづくりへと変化させていきたい。